

● 経済用語・データのいみ ●

「実質賃金」

厚生労働省が5月に発表した「毎月勤労統計調査」によりますと、2015年度の実質賃金は前年度比0.1%減となり、5年連続で前年を下回りました。

1. 「実質賃金」について

賃金は通常、貨幣にて支払われますが、支払われた貨幣額で示された賃金を「名目賃金」といいます。それに対し、物価上昇率を加味して導き出されるのが「実質賃金」です。具体的には「名目賃金÷物価上昇率」により算出します。

前年度の年間賃金が500万円で、本年度の年間賃金が530万円である場合を仮定してみると、名目賃金の増加率は、 $(530 - 500) \div 500 \times 100 = +6.0\%$

<実質賃金の考え方（上記例：物価上昇率を+10%とした場合）>

	前年度	本年度	前年度比
名目賃金 (A)	500万円	530万円	+30万円 (+6.0%)
物 価 (B)	1	1.1	+10%
実質賃金 (A ÷ B)	500万円	482万円	△18万円 (△3.6%)

になります。一方、同期間に物価が10%上昇した場合、実質賃金は18万円減少（△3.6%）したことになります。実質賃金が上昇しないと、本来の意味で「賃金が増えた」ことにはなりません。

2. 実質賃金（年度）の推移

2010年平均を100とした指数でみると、2015年度の名目賃金はわずかながらも上昇していますが、実質賃金は前年度比△0.1%と、5年度連続減少となりました。「アベノミクス」が目指す「物価上昇率2%」は達成が厳しい状況ですが、正社員に比べて賃金水準が低い非正規労働者が増加し、労働者間の収入格差が広がっているため、物価上昇に賃上げが追い付いていかなかったという状況です。なお、厚生労働省が7月8日に発表した5月の毎月勤労統計調査（速報値）によると、実質賃金（月間）は連続して4ヵ月間、前年同月比プラスになっています。消費者物価が下落した結果のようですが、いずれにしても、今後もこれまでの賃上げの流れを定着させていくことが重要であると考えます。

<名目・実質賃金（年度）指数の推移>



厚生労働省「毎月勤労統計調査」

閑話ひとつ

- ▶ スポーツカー復活の兆しがあります。一時は、排気ガス規制・騒音規制・燃費問題に加え、一番の理由として若者の車離れにより絶滅危惧種となっていたスポーツカーが、新車発売やモデルチェンジのニュースで話題を集めています。
- ▶ しかしここでも購買層の多くは「アクティブシニア」とよばれる中高年の「リターン組」や「果たせなかった夢を今実現組」らしく、若者の多くはまだ車の本当の楽しさに目覚めていないようです。自動車メーカーも新たな市場喚起にやっと本腰を入れ始め、TVなどによってモータースポーツというものが少しずつ市民権を得てきたかなと感じます。
- ▶ 自動車先進国のヨーロッパではプロレースの人气が非常に高く、またアマチュアの草レースも盛んで、車の楽しみ方に歴史の深さを思い知らされます。日本車の性能は追いついても車の文化までは中々難しいようです。
- ▶ レースではル・マン24やWRCなどが有名ですが、わが県にも、サーキットや全日本ラリーコースが存在します。これからモータースポーツの聖地になる資格十分では？！

(M.W)